

平成27年度学校経営方針

I 山梨県学校教育指導重点

- 1 知・徳・体の調和を重視し、「生きる力」を育む適切な教育課程の編成と実施に努める。
- 2 生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、確かな学力を育む指導と評価に努める。
- 3 集団の一員としてよりよい生活や人間関係を育成し、自己の生き方についての考えを深め、将来の生き方の基礎を培う生徒指導に努める。
- 4 体育・スポーツ及び健康・安全に関する基礎・基本となる資質や能力の育成に努める。
- 5 安全・安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に努める。

II 都留市学校教育の指針

- 1 生きる力を育む教育課程の編成と実施
 - 地域や学校の実態、児童・生徒の心身の発達の段階や特性等を考慮して、生き方を考え実現する能力を備えた調和のとれた人間の育成を目指す学校づくりに努める。
 - 各教科等及び学年相互間の関連と調和を図り、学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等の指導計画の改善と充実に努める。
 - 学校が楽しい学びの場となるために、学校運営の改善を図るとともに、小中学校間のつながりにも配慮した特色ある教育課程の編成とその実施に努める。
- 2 確かな学力を身につける学習指導の工夫
 - 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り学習意欲の向上と学習習慣の確立に努める。
 - 教育活動全体をとおして、思考力・判断力・表現力等を育むため言語活動を重視した指導に努める。
 - 課題をもって探究する学習指導方法や評価方法を工夫し、個に応じたきめ細かな指導に努める。
- 3 豊かな人間性を育む心（心づくり）の教育の推進
 - すべての教育活動をとおして、自他を敬愛し粘り強く最後まで諦めない、しなやかな心の育成に努め、規範意識、感動する心など豊かな人間性を育む心の教育の充実に努める。
 - 家庭・地域と連携して、基本的な生活習慣の確立と道徳的心情・道徳的実践力の育成に努める。
 - 愛情と信頼に基づいた、個に応じた生徒指導の充実に努める。
- 4 健康・安全・スポーツ教育の充実
 - 教育活動全体をとおして、体力・健康・安全・食に関する理解を深め、日常生活に生かせる能力を育てる。
 - 生涯を通じて体育・スポーツに親しみ、自ら体力の向上に積極的に取り組み、健やかで心身の調和のとれた児童・生徒の育成に努める。
- 5 信頼される学校づくりの推進
 - 学校内外からの評価を基に、家庭・地域と一層の連携を深め、地域に開かれた魅力ある学校づくりに努める。
 - 学校の安全計画及び防災・防犯等の危機管理マニュアルの改善・充実と、それに基づく安全管理体制を拡充し、児童生徒の安全の確保に努める。

III 本校の経営方針

歴史と伝統を有するふるさとの自然と文化を愛し、豊かで香り高い知性と情操を身につけ、たくましい意志と体力、自ら学ぶ創造的な個性をもった児童を育成することを本校教育の目標とし、次の基本方針を定める。

1 基本方針

- (1) 全教職員の英知と創意を結集し、質の高い意欲的な職場を作り、子どもたちや地域の実態をふまえた教育課程の編成を行うとともに、地域に開かれた特色ある学校づくりに努める。
- (2) 一人一人の個性を的確に把握するとともに、基礎的・基本的事項を身につけさせ、自ら学ぶ意欲や態度を育むように努める。
- (3) 全教育活動を通して、生命を尊重する心、他者への思いやり、規範意識、感動する心など豊かな人間性を育む心の教育の充実に努める。
 - ・いじめや不登校、暴力行為等は、どの学校でも起こり得ることを十分認識し、未然防止のための取り組みを推進する。
- (4) 健康と安全に対する関心や態度を育むとともに、生涯体育・スポーツに親しみ、体力の向上に積極的に取り組む子どもを育成する。
- (5) 情報発信に努め、家庭・地域との連携を密にし、地域の特性を生かした特色ある教育の推進に努める。
- (6) 学校安全計画及び防災・防犯等の危機管理マニュアルの改善・充実と、それに基づく安全管理体制の拡充に努める。

2 教育目標

『 確かな学力と 豊かな心と 健康な体をもった児童の育成 』

3 めざす子ども像

- よく考える子
進んで学習し、正しく判断して、物事が処理できるとともに、創意工夫のできる子ども
- がんばりのきく子
広い視野に立って、正しい事は主張し、自分の行動に責任を持ってやり抜く、強い心と体をもっている子ども
- 思いやりのある子
自然を愛し、自他を大切にし、お互いに協力し合える、心のやさしい子ども。

(具体的)

- よく考える子
 - ・課題を持ち自ら学習できる（自主的に課題を見つけて学習ができる）
 - ・「わけ」を添えて意見が述べられる（発言の根拠を添えて自分の意見が言える）
 - ・進んで読書し自分の考えが持てる（読書したことについて自分の意見が言える）
- がんばりのきく子
 - ・毎日、学年×10分以上の家庭学習が続けられる（毎日の自主的な学習習慣）
 - ・運動に親しみ体力づくりに努められる（継続的な体力づくりが続けられる）
 - ・係の仕事最後までやり遂げられる（担当箇所の清掃活動等を責任をもって行う）
- 思いやりのある子
 - ・明るくあいさつができ、相手を思いやる言葉が使える
(あいさつ・言葉遣いの大切さを認識させ、実践させる)
 - ・お互いに良いところを認め合い励まし合える
(児童対児童、児童対教師で徹底する)
 - ・自然や物を大事にできる（環境に対しても思いやりをもてるようにする）

4 めざす学校像

- いきいきと学ぶ学校
- 子どものよさを伸ばす学校
- 期待と信頼に応える学校
- 安心・安全な学校

5 めざす教師像

- 目標に向かって協働する教師
- 子どもの心に寄り添い支える教師
- 温かさと厳しさをもつ教師

6 指導の重点

(1) 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間

① 各教科

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- 個に応じた指導や学ぶ意欲を引き出す授業を工夫する。
- 思考力・判断力・コミュニケーション能力等の伸長を図る。
- 指導法及び評価方法の工夫改善を図る。
- 国語力の向上に努める。

② 道徳

- 豊かな人間性と道徳的実践力を育てる。
- 命の大切さがわかり、主体的に判断できる力を育てる。
- 一人ひとりを大切に、協力し合う等の社会性を育てる。
- 父母・祖父母を敬愛し、郷土を愛する心を育てる。

③ 特別活動

- 望ましい集団活動を通して、調和のとれた心身の伸長を図る。
- 集団・社会の一員としての自覚を深め、よりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。
- 人間としての生き方についての自覚を深め、自己確立の基礎づくりを図る。

④ 総合的な学習の時間（宝っ子）

- 自ら課題を見つけ、問題を解決していく力を育てる。
- 学び方やものの見方・考え方を育てる。
- 自己の生き方を考える力、生活に生かす力を育てる。
- 各教科・道徳・特別活動との関連を図る。
- 情報・平和・環境・保健安全・福祉・図書館教育等との関連を図る。

⑤ 外国語活動

- 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

⑥ キャリア教育

- 望ましい進路発達を促す勤労観や職業観を育成する。
- 将来を見つめ、自らの生き方を考える力を育てる。

(2) 生徒指導

① 基本的生活習慣の徹底

- 児童理解に努め、思いやりのある温かい人間関係の中で、基本的生活習慣が確実に身につくよう指導の徹底を図る。

② 問題行動

早期発見・早期対応を旨とし、その要因や背景を多角的な視野から分析し、全教職員の共通理解のもと、家庭や地域及び関係諸機関との連携を密にして、指導の徹底に努める。迅速な保護者対応を心がけ、「報告」「連絡」「相談」「確認」を徹底する。

(3) 学級経営

- ① 担任として独自性を発揮して学級経営にあたり、教師の人柄がにじみ出た学級をつくり出す。
- ② 子どもが存在感を感じる、民主的でより質の高い学級集団づくりに努める。
- ③ 教室の環境整備（美）に心がける。

(4) 特別支援教育

① 基本方針

- 特別支援コーディネーターを中心に全教職員が一丸となり協力して取り組む。
- 校内委員会を設置し適切な運営を進める。また、必要に応じて外部の専門機関や講師の効果的活用を図る。

② 特別支援学級としての教育目標

- 自分のことは自分でする子
- 友だちと仲良くする子
- 最後までやり抜く子

☆特色ある学校づくりのために教職員に望むこと

(1) 学校としての目的達成のためにすべきこと

義務教育終了段階で、社会生活に必要な知識や技能、経験を習得させ、自らの生き方を行動できる能力と態度を育てていくことが学校に課せられた使命であると考え。そのために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成を図り、社会でたくましく生きていくための力を身につける必要がある。

現代は知識基盤社会といわれ政治、経済、文化等々、社会のあらゆる領域での活動の基盤として新しい知識や、情報、技術が必要とされる。そのために、子どもたちにとっても今後、必要不可欠な能力として次の3点が上げられる。

- ①自ら課題を見いだす力
 - ②生涯にわたって学び続ける意欲
 - ③他者、社会、自然、環境と共に生き、変化に対応する能力
- こんな点を視野に入れ、日々の学習指導に当たっていくことを心がけていく。

(2) ほめて認める中から子どもを伸ばす指導を基本に「児童の自己肯定感を育む。」

否定や先入観からは何も生まれぬ。人のやる気は、人から必要とされているという「自己の中の自己肯定」から始まると考える。居場所のない環境では、「頑張るぞ!」という気持ちは生まれてこないし、育ってもいけない。そこで「自分が好き」な子どもを育てていきたい。

今年度の「宝小学校」のテーマは自己肯定感の育成である。「自分が好き」「友だちが好き」という子どもたちを一人でも多く育てたいと思う。自分を好きであるためには、まずは、自分に対するある程度の厳しさが必要である。当然、いい加減な自分は好きにはなれない。

また、自分が好きな人は、他者にも優しくなれ、多少の困難にも耐え、自分の道を切り開く力を備えているはずである。そして、頑張っている人には他者が助けてくれるというのが一般的である。

「ありのままの自分の存在感」や「自分もまんざらではないと思える感情」「自分を大切に思う心」などが自己肯定にあたる。つまり、人からの見られ方、評価のされ方で変わっていくのである。存在を認めてもらえると、本人の自尊感情は高まり、前向きな生き方や人との良好な人間関係が築けるのだと思う。

学校の活動の中では、子どもたちが力を合わせて作り上げていく合唱や運動会、ボランティア活

動などがとても有効になる。集団のメンバーが一つの目標に向かって、一人一人ですべきことを実行したり、ちょっとした提案が実を結んだり、子どもたちが小さな成功体験を積み重ね、達成感を高めていく時間を増やすことが必要である。

そこで、今年度は子どもたちの自己肯定感を学校と家庭、地域との連携の中で育てていきたいと考えている。

(3) 学び続ける教師であり続ける

「教育は人なり」と古くから教育の不易の部分として語られているが、まさに、学校を変えてのは教師一人ひとりであり、宝小学校という教職員集団であると考えている。

そんな意味で、児童を第一に考え、学び続ける教師集団をつくるのが欠かせない。「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければいけない」は、元サッカーフランス代表監督である、ロジェ・ルメール氏の言葉である。「学ばない人」は先輩面して、部下にあれこれと教えてはいけない。「学ばない人」は偉そうに「過去の経験」を部下に語ってはいけない。「教える資格がない」ということだけでなく、「教わるほうに失礼だ」ということである。だから、「教師」は常に進化・向上を自分に課さなければいけないと思う。「学ぶのを止めた時」は舞台から降りるときである。

もちろん、学んでいけばいいというわけではないが、学んだことを実践し、結果につなげていくことが「教師」の仕事である。「学ぶこと」をしなければ、「リーダー」の第一歩は始まらない。ここに年齢は関係ない。間違っても「過去のふんどし」で相撲を取り続けてはいけない。

子どもには読書をしろ、新聞を読めと要求するが、読書はしない。新聞は読まない。さらには、研修会にも行かない。このような人は、日常が「学校」、「身の周りの出来事だけ」で完結しており、今後の時代には絶対に通用しない。つまり、学び続ける先生だけが「教師」で在り続けることができると思う。

以上のように、様々な取り組みの中で子どもたちの心を大切に、本年度も、子どもたちや保護者との信頼関係をより強い関係へと構築していきたいと思う。一人一人のよさを認め、みんなそれぞれにいろいろな能力があることから、どの子にも活動の場をつくって肯定的な評価をしていきたい。「自分ならできる。」「自分は、みんなのために役に立っている。」という自己肯定感を育て、自分のやるべき事を自覚し、次に何をしたらよいかを考えることができる児童の育成を目指したい。